

平成 22 年度 文部科学省 研究開発評価シンポジウム
研究評価を通じた研究組織の活性化のための方策

パネル・ディスカッション

東京, ベルサール九段 イベントホール
2011 年 2 月 23 日

パネル・ディスカッションの目標

- 「研究開発評価システムの方向性について（審議のまとめ）」
(平成 21 年 8 月 4 日, 科学技術・学術審議会 研究計画・評価分科会 研究評価部会)
において示されている
研究評価を通じた研究組織の活性化のための方策について,
- 第 1 部〈講演〉における委託調査報告ならびに実例紹介
（「研究グループ形成への支援」, 「重点領域研究の戦略と評価」）
も踏まえて,
関係者間で認識・情報・経験の共有を図ることを狙いとする.
- 資金配分機関や,
大学, 研究開発独立行政法人等の研究開発実施機関といった
現場において取り組むべき方策の要点や具体的内容, および,
想定される課題について, 検討を深めることを目標とする.

評価システム改革の基本的考え方

「研究開発評価システム改革の方向性について（審議のまとめ）」
(平成 21 年 8 月 4 日, 科学技術・学術審議会 研究計画・評価分科会 研究評価部会) から

1. 目的に応じた評価システムの再構築
2. 階層構造と階層間の関係が明確化された評価システム群の形成
3. 一貫性のある評価とマネジメントの実施

評価システムの当面講ずべき改革の方向性

「研究開発評価システム改革の方向性について（審議のまとめ）」

（平成 21 年 8 月 4 日，科学技術・学術審議会 研究計画・評価分科会 研究評価部会）から

1. 評価の観点・基準・視点

- (1) 研究開発に適した評価の観点
- (2) 研究開発の性格に応じた多様な評価基準
- (3) 研究活動を支える組織，次世代の人材を育成する組織やプログラムの役割を重視する評価の視点
- (4) 研究コミュニティの活性化を促進する評価の視点
- (5) 世界的な視点での評価

評価システムの当面講ずべき改革の方向性（続き）

2. 効果的・効率的な評価手法

3. 研究開発評価に係わる専門人材の育成

(1) 評価者, 評価専門人材, 評価の専門家

(2) PD, PO 制度改革

4. 評価文化の醸成

パネル・ディスカッションにおける主な論点^{*1}

1. 新たな発想や着想に基づいた研究を行う研究コミュニティの形成

- 学際・融合領域の評価のあり方
- 研究開発評価システム全体での対応

2. 各機関の特色や特徴を活かし、組織全体の活動へ展開する方策

- 機関内研究機構や研究プログラムを通じた研究組織（研究チームや研究グループ）の形成の促進と、これを支える評価および戦略の立案やモニタリング
- 研究プログラム単位での評価
- 評価者の国際化
- 人材の流動性と価値観の多様性の確保
- アウトリーチ活動の実施

◆ (共通留意事項)

- 若手研究者を励まし育て伸ばす視点での方策
- 評価者と被評価者が一体となった研究コミュニティの活性化のための方策

*1 これらの論点については、研究開発評価推進検討会における議論を通じて設定された。

論点 1. 新たな発想や着想に基づいた研究を行う研究コミュニティの形成

- 学際・融合領域の評価のあり方
- 研究開発評価システム全体での対応

◆ (共通留意事項)

- 若手研究者を励まし育て伸ばす視点での方策
- 評価者と被評価者が一体となった研究コミュニティの活性化のための方策

論点 2. 各機関の特色や特徴を活かし、組織全体の活動へ展開する方策

- 機関内研究機構や研究プログラムを通じた研究組織（研究チームや研究グループ）の形成の促進と、これを支える評価および戦略の立案やモニタリング
- 研究プログラム単位での評価
- 評価者の国際化
- 人材の流動性と価値観の多様性の確保
- アウトリーチ活動の実施

◆（共通留意事項）

- 若手研究者を励まし育て伸ばす視点での方策
- 評価者と被評価者が一体となった研究コミュニティの活性化のための方策